

需給検証委員会提出資料

平成 24 年 10 月 19 日

J A 北海道中央会
常務理事 村上光男

1. J A グループ北海道における今夏の節電取組について

- ・北海道においては、今夏の電力需給ひっ迫が見通されたため、政府の「今夏の電力需給対策」（平成 24 年 5 月 18 日）に基づき、平成 22 年同時期対比で 7%以上の節電目標が提示され、5 月 21 日の「第 1 回北海道地域電力需給連絡会」において行政、製造業、流通業、金融機関、農林漁業団体、消費者団体等に対し節電協力要請がなされた。
- ・J A グループ北海道では、5 月 30 日開催の J A 北海道中央会理事会において、計画停電は、農畜産物の品質・安全性や農業経営への深刻な影響を及ぼすことが想定されるため、その回避に向け、生産者・J A・連合会が一体となり、節電目標達成に向けて取り組んでいくことを確認した。
- ・具体的には、生産現場、J A 事務所及び関連施設、J A 組合員・役職員各家庭各々の段階における具体的節電対策のチラシ（別紙）を行政とも連携の上作成（8 万部）し、全組合員・役職員・関係機関に配布した。
併せて、地区代表者出席の各種会議等を通じ、内容周知をはかった。
- ・節電取組効果については、全体的な調査を実施していないが、数 J A 及び生産者に聴き取りの結果、J A 事務所・関連施設関係では、事務所蛍光灯の取り外しやこまめな消灯、エアコンの室温温度の設定見直し等が共通的に取り組まれていた。
- ・本年 7~8 月分の J A 事務所の節電実績として、前年比で 10%、大きい J A では 30%もの削減を実現した。
- ・道連合会事務所においても、6 月以降、節電に取り組んだ結果、3 カ月トータルで、北農ビルで前年比 18%、ホクレンビルでは、前年比 16%の節減実績となった。
- ・農家段階の取り組みとしては、酪農家 2 件より実績データの提供を得るが、牛乳を冷却するバルククーラーの掃除や牛舎蛍光灯の間引き、除糞のためのバンクリーナー稼働時間の短縮、暑熱対策としての換気扇・扇風機の夜間設定温度の見直し等により、前年比 8%~12%の節電を実現した。

【農家事例】

区分	単位等	農家事例①	農家事例②
経営形態		酪農	酪農
経営面積	ha	220ha	50ha
搾乳牛飼養頭数	頭	310頭	120頭
契約形態	低圧・高圧	高圧	高圧
電力使用量			
23年8月	kwh	25,474	15,317
24年8月	kwh	23,537	13,514
前年比		0.92	0.88
主な取組事項		<ul style="list-style-type: none"> ・バルククーラー冷却機掃除 ・照明の節約 (蛍光管の間引き) ・バンクリーナーの稼働時間短縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・換気扇、扇風機の夜間設定温度の見直し ・搾乳時間中の換気扇、扇風機の停止

2. 冬場における計画停電への懸念

- ・酪農においては、通年的に搾乳作業が行われるため、搾乳機・バルククーラー・バンクリナー等を動かすため電力は必要不可欠である。
北海道においては、経営規模の拡大を進めてきたため、酪農家1戸当たりの乳牛飼養頭数も110頭を超えており、手作業による対応は不可能といえる。
- ・また、製糖工場、乳業工場、選果施設（長いも）等の農業関連施設・工場は、冬場も稼働しており、計画停電時には、相当な支障を生じることが危惧される。
- ・さらに、ハウスによる野菜花き栽培については、加温作型の場合、冬期間に保温や育苗作業を行うものもあり、暖房燃料自体は灯油を使用するものの、暖房機器の起動・運転には電力を要する。
- ・たとえ一時的ではあっても、乳牛の搾乳を行わなければ、乳房炎の発症により、酪農経営は大きな打撃を被ることとなり、ハウスの暖房が止まると一夜にして全ての株が枯死してしまい、営農に多大な影響を及ぼす。
- ・上記実態を踏まえ、農業生産現場としては、夏場同様、「計画停電」については、なんとかしても回避することが必要と考える。
- ・国においては、冬場に向けての電力需給見通し（節電の有無、節電規模、計画停電の対応）に関し、迅速かつ正確な情報提供を願いたい。
- ・冬場における節電対応は限定的にならざるを得ないが、電力需給見通しが示された段階で、JAグループ北海道としても、その内容を踏まえ対応を検討いたしたい。